

## ◆ 今週のコメント

- インフルエンザの定点当たり報告数は、3.06(208例)で、平成21年第53週に定点当たり報告数が10.0を下回ってからも減少し続けています。年齢群別では、「0～4歳」が最も多く、次いで「5～9歳」となっています。第4週に京都市衛生公害研究所でPCR検査を実施した8例のうち、4例からA型インフルエンザウイルスが検出され、そのすべてがAH1pdm(新型)でした(4例は陰性)。
- RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.54(22例)です。1月の累積報告数は60例で、平成16年から平成21年の1月の月別報告数(1～25例)と比較して、かなり多くなっています。年齢階級別では、7歳以下から報告があり、2歳以下で86.4%(19例)を占めています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は0.85(35例)で、平成21年第53週以降増加していません。

## ◆ 今週のトピックス:&lt;感染性胃腸炎&gt;

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、9.90(406例)で、今シーズン(平成21年第36週～)で最も多い報告数となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

## 全数報告の感染症

ありません

## 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	3.06	208
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	9.90	406
	② 水痘	1.10	45
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.85	35
	④ 流行性耳下腺炎	0.59	24
	⑤ RSウイルス感染症	0.54	22
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

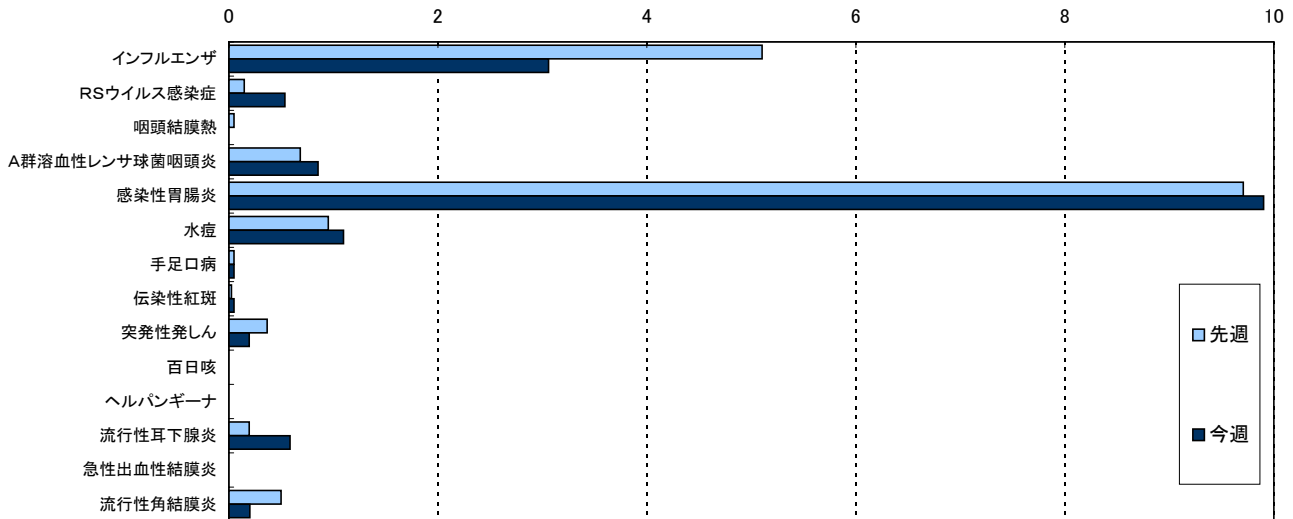
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<感染性胃腸炎>

(注) 京都市のデータは、平成22年2月4日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

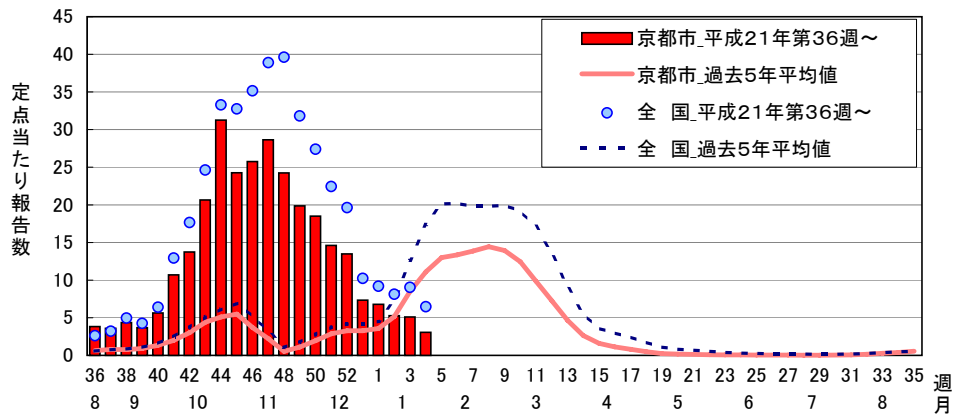
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第4週)と先週(第3週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

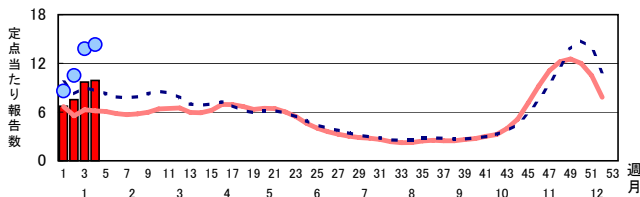
週	報告数(例)
第53週	499
第1週	461
第2週	359
第3週	347
第4週	208
累積報告数 (第36週以降)	20015



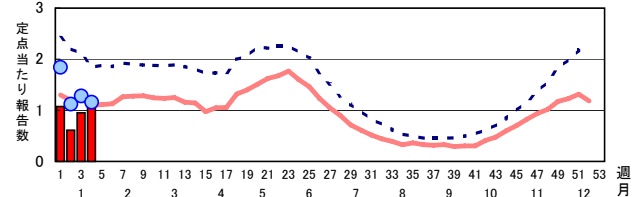
## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

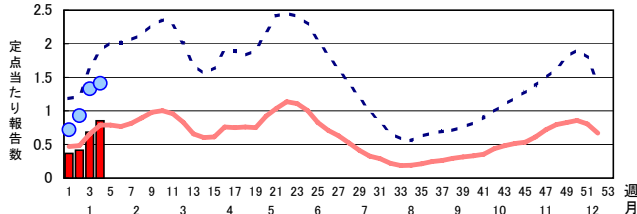
1 感染性胃腸炎



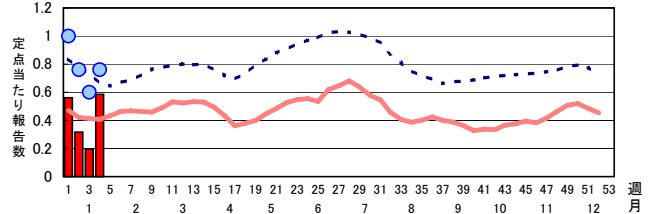
2 水痘



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

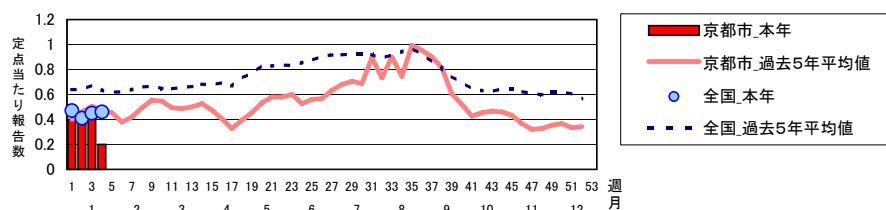


4 流行性耳下腺炎



<眼科定点>

流行性角結膜炎



## 第4週(1月25日～1月31日)トピックス: <感染性胃腸炎>

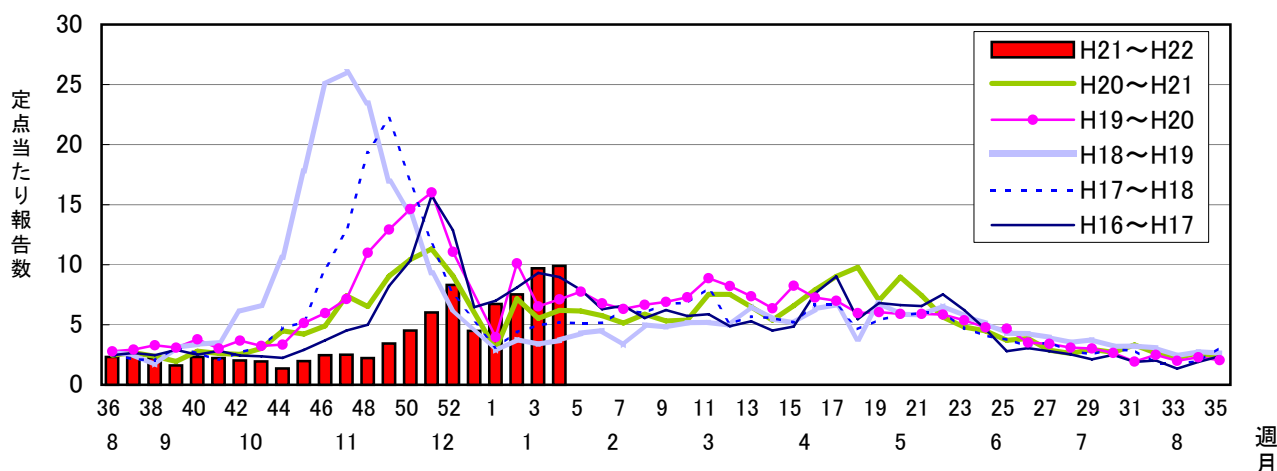
感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、9.90(406例)で、今シーズン(平成21年第36週～)で最も多い報告数となっています。推移をみると、平成21年第48週以降、第52週まで増加した後、年末年始の第53週(12/28～1/3)に減少しましたが、再び増加していますので、今後とも動向に御注意ください。

なお、全国の定点当たり報告数は、14.31で、本市と同様の推移を示しています。

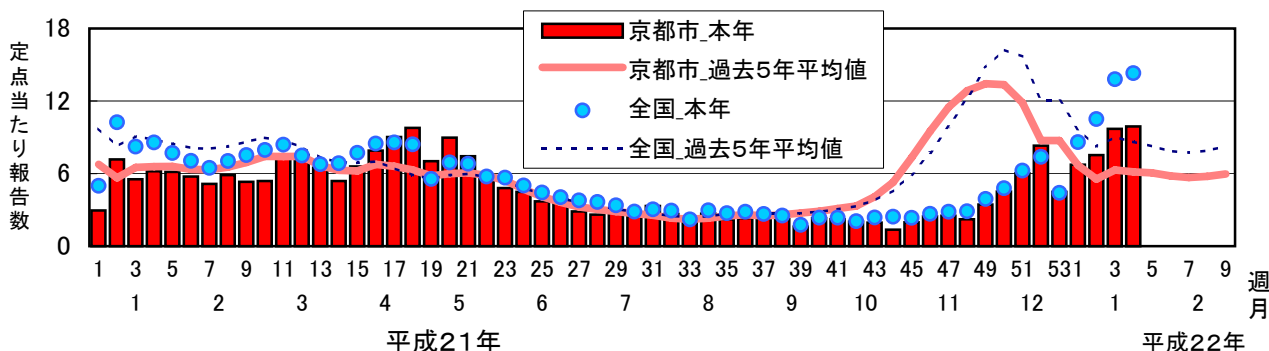
年齢階級別では、先週に比べて、4歳及び6歳から14歳までの各年齢階級で増加しています。

京都市衛生公害研究所では、感染性胃腸炎患者からノロウイルスGⅡを多数検出しています。全国においても、感染性胃腸炎患者からノロウイルスGⅡが多数検出されています。

本市のシーズン別定点当たり報告数の推移



本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移

